

福島市民有志による二ツ小屋隧道坑口（福島側）環境整備 ——隧道坑口付近の側溝清掃、石積の美化作業等を実施——

報告：大滝会 鹿摩貞男（特別会員）
（万世大路研究会）

はじめに

平成30年11月10日（土）及び12月1日（土）の両日にかけて、旧万世大路（旧国道13号）の環境整備の一環として二ツ小屋隧道福島側坑口付近の側溝清掃、石積の美化作業等を実施してきました。福島市民有志によるもので、筆者は大滝会（万世大路研究会）を代表し参加してきたものである。

筆者は都合により11月10日のみの参加だったのでこちらを中心に報告する。また、12月1日については、関係者の方から写真の提供を受けているので作業状況（写真）について紹介したい。

旧万世大路には、^{ずいどう}隧道（トンネル）や^{きょうりょう}橋梁などの貴重な土木遺産があり、興味尽きない建設時の秘話（歴史）などもあり、最近は一ツ小屋隧道の巨大氷柱が話題になって、一般の方々にとっても人気のある場所となっています。しかし、その管理者については具体的に明確でなく、従って荒れ放題の感があり、観光資源化にあたっては大きな課題となっております。そのような中で一部有志の方々のボランティア活動により環境整備がなされております。今回も福島市民の有志で、まずは見るべき所の多い二ツ小屋隧道の福島側についてさらなる環境整備をおこなうこととしたものです。

本報告では、その第1節として側溝清掃や石積の美化作業の状況を報告する（写真）。

次に第2節として、二ツ小屋隧道までは徒歩で移動したので、晩秋の美しい旧万世大路を紹介していきたい。晩秋の落葉後は雑草も枯れ道路の状況や石積の状況を良く観察することができる。

第1 側溝清掃等作業状況

《11月10日》

朝9時過ぎ、東栗子トンネル福島側坑口駐車帯に集合し、時折小雨が降るなか新旧国道連絡路（旧工事用道路など）を上り、旧国道13号（旧万世大路）に出て晩秋の風景や石積などの土木遺構を見学しながら二ツ小屋隧道*には10時半頃到着しました。

現地の清掃作業等は昼食（立ったまま）を挟み午後1時半頃までおこない帰路につき、午後2時半頃駐車帯で解散しています。参加者は9名。（写真-1①～写真-4②）

（万世大路道路状況写真は後掲）



【写真-1①】 隧道前、右側・側溝清掃作業



【写真-1②】 隧道前、右側・側溝清掃作業



【写真-1③】 隧道前、右側・側溝清掃作業。
福島側を望む。



【写真-2①】 隧道前、左側・側溝流末部
清掃作業



【写真-2②】 隧道前、左側・側溝流末部
清掃作業



【写真-3①】 側溝清掃終了。「鳳駕駐蹕之蹟」
石碑東側石段。



【写真－3②】 作業終了記念写真。福島市民有志による万世大路環境整備・ニツ小屋隧道福島側にて。



【写真－4①】 作業休憩、昼食。



【写真－4②】 作業終了帰路へ。

*ニツ小屋隧道の概要

(1) ニツ小屋隧道は、旧国道 13 号のトンネルで福島市飯坂町中野ニツ小屋地内に所在する。(ニツ小屋山標高 947.3m (四等三角点) に穿たれた。トンネル標高 694.4m)

(2) トンネル諸元等

構造：コンクリート巻立（壁や天井がコンクリート造）、路面：セメントコンクリート舗装

延長：L=384m、車道幅員 W=6.0（全幅 6.5m）、高さ全高 H=5.1m（建築限界 4.5m）

トンネル縦断勾配：水平 横断勾配 1:40 (2.5%)

(3) 工事期間等

工事期間： 昭和 8 年 5 月～昭和 9 年 12 月（舗装完まで、本体 3 月完成） 1 年 7 ヶ月間
供用開始（一般車の通行開始）：昭和 12 年（1937 年）5 月
（昭和 41 年（1966 年）5 月栗子国道（栗子ハイウェイ）開通まで 30 年間使用）

※ 参考 【二ツ小屋】の読みについて

- ・ 地元（旧大滝集落） ふたつごや （濁る）
- ・ 文献 ふたつこや （濁らない）

- 1) 福島市史編纂委員会『福島市史資料叢書第 38 輯福島の小字』福島市教育委員会
昭和 58 年 3 月 31 日
- 2) 「点の記 三等三角点 二ツ小屋山」（国土地理院）
濁らない「ふたつこややま」のルビあり。

【二ツ小屋隧道】

詳細については、当 HP 下記サイトを参照してください（『H29 年冬、万世大路「二ツ小屋
隧道巨大氷柱」実見記』（平成 29 年 2 月））。

<https://ootaki.xsrv.jp/H29hiyoucyu.pdf> (17 頁)

【万世大路】

万世大路一般についてお知りになりたい方は当 HP 下記サイトを参照してください（『万世
大路読本』（平成 27 年 8 月、改訂第 4 版））。

<https://ootaki.xsrv.jp/278banseiojidokuhon.pdf>

— 次ページに 12 月 1 日分を掲載 —

《12月1日》

この日は雪が降って寒かったそうです（写真提供：渋谷浩一さん、高橋幸一さん）。参加者は約20人とのこと。（写真－5～写真－8③）



【写真－5】 清掃作業前の打合せ



【写真－6①】 隧道前、環境整備・清掃作業



【写真－6②】 隧道前、左側石積美化作業



【写真－6③】 石積美化作業



【写真－6④】 隧道前、左側・側溝清掃、
石積美化作業



【写真－7①】 清掃美化完了。
二ツ小屋隧道福島側袖石積（左側）。



【写真－7②】 清掃完了。
左側袖石積端部と側溝流末部



【写真－8①】 作業終了。ニツ小屋隧道福島側坑門
面壁。切石積(コンクリート練積)、
旧隧道内発生品(巻立石)を使用。



【写真－8②】 拱構(きょうこう:アーチ部)
・門柱基部土台石、出現(左側)。



【写真－8③】 拱構(アーチ部)
・門柱基部土台石、出現(右側)

第 2 万世大路の晩秋、現況写真

前述の通り晩秋の名残の紅葉はなかなか綺麗で、明治期万世大路の跡もはっきりと確認できるなど、この時期でなければ堪能できない眺めを楽しみました。

(1) 新旧国道連絡路(旧工事用道路など)

われわれが新旧国道連絡路と勝手に仮称しているのは、現国道 13 号(東栗子トンネル手前右側上り口)から旧国道 13 号万世大路へ至る 1 k m 弱の山道のことである(当該区間は旧国道でもなく、いわんや旧万世大路でもない)。その構成(性格)をみると、現国道上り口から新換気塔(E13 東北中央自動車新栗子トンネル用)まではその管理用通路であり、新換気塔からその先の旧工事用道路までは取付坂路とりつけはんろが設置されている。そのあと旧工事用道路が旧国道 13 号(旧 5 号)まで続いているものである。(写真－9①～⑤)



【写真－9 ①】 現国道 13 号東栗子トンネル福島側
駐車帯。取付坂路終点(頂上)付近
から望む。



写真－9 ②】 新旧国道連絡路(手前取付坂路部
・奥管理用通路部)。
建物、左側旧換気塔(東栗子 Tu 用、
現在廃止)・右側塔(E13 新栗子 Tu 用)。
取付坂路終点から望む。



【写真－9 ③】 出発、新旧国道連絡路・旧工事中
道路現存部終点付近



【写真－9④】 旧飯坂スキー場リフト(昇降場?)跡



【写真－9⑤】 連絡路終点(T 字路分岐点、旧工事
用道路起点)を望む。
写真奥が旧国道 13 号(バリゲート箇所)、
左米沢側、右福島側。

(2)連絡路分岐点～「七曲バイパス(仮称)」米沢側ヘアピンカーブ

連絡路の旧道タッチ箇所（T字路分岐点）付近から二ツ小屋隧道福島側坑口の手前までは、明治期万世大路においては「七曲」と称する難所であったが、大きく2箇所のヘアピンカーブによりバイパス化（新設）し難所を解消したところである。この初代明治期万世大路の「七曲」は現在でも山中に確認することが出来る。（写真－10①～写真－12⑤）



【写真－10①】 連絡路分岐点付近から旧国道 13 号（万世大路）福島側を望む。
明治期万世大路拡幅（盤下げ）区間。



【写真－10②】 分岐点付近から旧国道 13 号米沢側を望む（昭和の大改修バイパス区間）。
右側林の中明治期万世大路「七曲坂」第 1 号カーブ箇所。



【写真－10③】 明治期初代万世大路「七曲」第 1 号カーブ付近を望む。



【写真－11①】 昭和の大改修「七曲バイパス(仮称)」福島側ヘアピンカーブをカエル岩付近から望む。
中央奥、左側がビューポイント。



【写真－11②】 昭和の大改修「七曲バイパス(仮称)」カエル岩（掘割箇所、右側岩塊）付近を望む（米沢側）。



【写真－11③】 カエル岩（旧国道掘割箇所）、前の岩石は崩れ落ちた頭部と思われる。



【写真－11④】 昭和の大改修「七曲バイパス(仮称)」カエル岩の米沢側を進む。福島側から望む。



【写真－12①】 昭和の大改修「七曲バイパス(仮称)」中間部石積箇所、福島側から望む。



【写真－12②】 「七曲バイパス(仮称)」中間部石積箇所、米沢側から望む。



【写真－12③】 「七曲バイパス(仮称)」米沢側ヘアピンカーブ手前から福島側を望む。中央奥が石積箇所。



【写真－12④】 「七曲バイパス(仮称)」米沢側ヘアピンカーブを望む。



【写真－12⑤】 明治期万世大路「七曲」四段目道路(手前)と三段目道路(奥)を「七曲バイパス」石積箇所中間部から望む。

(3)「七曲バイパス(仮称)」米沢側ヘアピンカーブ～ニツ小屋隧道

当該区間は詳細不詳であるが、「昭和の大改修」*においてバイパスとして新設された区間（福島側）と明治期万世大路を拡幅盤下げて新国道とした区間（隧道付近）がある。道路延長方向に長い石積が設置されている。（写真－13①～写真－15②）



【写真－13①】ニツ小屋隧道福島側の見事な石積（昭和の大改修）、隧道側（米沢側）を望む。



【写真－13②】前写真に続く石積。



【写真－13③】石積と紅葉。隧道側から福島側を望む。



【写真－14①】ニツ小屋隧道（福島側坑口）と石碑（鳳駕駐蹕之蹟（ほうがちゅうひつのせき）、山神（さんじん））



【写真－14②】左側「鳳駕駐蹕之蹟」（明治天皇御小休所跡。移設後、推定明治41年9月12日建立）、右上「山神」様（裏面刻字：明治14歳12月）。



【写真－14③】ニツ小屋隧道福島側坑口



【写真－15①】 ニツ小屋隧道米沢側坑口



【写真－15②】 ニツ小屋隧道米沢側坑口から米沢側を望む。

*「昭和の大改修」

明治時代に開通した（M14（1881）.10.3）初代万世大路をそれまでの荷馬車通行から自動車も通行できるように改修した事業を指す。本工事は、当時の内務省仙台土木出張所福島国道改良事務所（現国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所）において直営工事として施工された。工事期間は昭和8年（1933年）4月から同12年3月までの4箇年、総事業費678千円。その「昭和の大改修」という事業名称は当時の正式名称でもなければ、また通称としても用いられたという事実はなく、筆者らが最近になって便宜的に使用しているものである。当時の事業名は「5号国道改良工事」である。

おわりに

万世大路の観光化といってしまうと若干の違和感はあるかもしれないものがあるけれども、土木遺産として多くの方々に見学をして頂きたいという願いはある。万世大路がいわゆる廃道マニアが好むような秘境であってはならないと思っている。

大滝会としても環境整備に協力しているところであり、今後でもできる範囲で協力していきたいものである。

本稿の編集にあたっては、大滝会 HP 管理人紺野文英様にいつものようにお世話になりました。衷心より御礼申し上げます。

— 次ページに新聞記事を掲載 —

環境整備 観光へ活路

安全確保へ市民有志活動

万世大路・二ツ小屋隧道

明治時代初期に建設が始ま

った、福島市と山形県米沢市

の県境にまたがる栗子峠の旧

道「万世大路」に残るトンネ

ル跡の一つ「二ツ小屋隧道」

(全長約380m)などを観

光資源に活用しようと、福島

市の市民有志がトンネル周辺

の雑木伐採や側溝清掃などの

環境整備に取り組んでいる。

整備活動はこれまで少人数な

どで行ってきたが12月1日には

市民に参加を呼び掛けて隧

道周辺の整備を行う。

二ツ小屋隧道は冬期間に巨

大水柱ができることも知ら

れ、ひそかな観光スポットに

なっている。ただ万世大路は

公的な維持管理がされておら

ず、隧道は破損している場所

もあり、隧道への道も山道で

危険な場所があるため安全対

策が課題となっている。

活動に参加している万世大

路研究会員の鹿摩貞男さん

(73)「福島市」は「先人の技

術が築いた歴史を後世に残すことが重要だ」と活動の意義を強調。自営業高橋一夫さん(72)「同市」は「万世大路は地域の宝。なんとか観光につなげたい」と話している。

あす整備活動

12月1日の整備活動は午前

9時15分までに、国道13号東

栗子トンネル東側(福島側)

の駐車帯に集合する。現地ま

では山道を約40分歩くため、

山歩きの準備が必要。問い合

わせは高橋さん(電話090

・1931・0001)へ。



二ツ小屋隧道周辺で行われている整備作業

Q 万世大路 1881(明治14)年に開通し、明治期に国内最長のトンネル(栗子隧道)が掘られるなど時代によって最先端技術が用いられてきた。現在の国道13号の整備に伴い昭和40年代に廃道となった。

HOMETOWN ネット59

活動に励む参加者



万世大路・二ツ小屋隧道

環境整備に有志集まる

福島市と山形県米沢市の県境にまたがる栗子峠の旧道「万世大路」に残るトンネル跡「二ツ小屋隧道」を観光資源に活用しようと、福島市民有志が1日、同隧道周辺の環境整備に取り組んだ。少人数で続けてきたが、この日は広く参加を呼び掛けて実施し、市内外から協力者が集まった。

万世大路は1881(明治14)年に開通し、現在の国道13号の整備に伴い昭和40年代に廃道となった。二ツ小屋隧道は冬期間に巨大つららができることで知られ、ひそかな観光スポットになっている。万世大路は公的に維持管理されていない

ため、トンネルや山道に危険な場所があり安全対策が課題となっている。

この日は協力者10人を含み約20人で実施。トンネルの入り口やその周辺の石垣などで、雑木伐採や側溝清掃などを行った。福島市の自営業高橋一夫さん(72)は「皆さんの協力のおかげで、二ツ小屋隧道の周辺の風景がほぼ昔に戻った。雪解け

を待つ、来春から活動を再開させたい」と意気込んでいる。